

■新型コロナウイルス（COVID-19）感染症に臨んで

さぬき市民病院長 徳田 道昭

毎年春に発行する季刊誌では、今年度の活動に向けて院内各部署からのビジョンが提示されるのが恒例ですが、今年ばかりは、新型コロナウイルスに関して、当院での現状（2020年5月初旬）について病院長から巻頭で報告させていただきます。今年の1月下旬、「中国で局地的に流行しているウィルス」の話がマスコミを通じて伝わってきたと思いきや、その後毎日のように患者数が増え、やがて「武漢」という都市の封鎖から海外渡航制限に至るまで、まさに瞬く間に感染が広がりました。これに並行して日本国民の耳目を集めたのは、豪華なクルーズ船の内部に蔓延するウィルスの傍若無人ぶりでした。罹患者が夫や妻と別れて次々に搬出される姿を見て、「これが本土に上陸すれば、医療現場は大混乱になる。」と懸念しつつ事態の推移を見つめていました。その一方で、この体験を通じて罹患者と健常者を分ける‘ゾーンニング’という耳慣れない言葉にも馴染み、また感染リスクを最も高めるのは、食堂という‘密室’に‘密集’した客達が、‘密接’して飲んで語らうという典型的な“3密環境”であることも分かってきました。昼の人混みが減り、夜の人出が減ってやっと感染患者数が頭打ちになった3月末、全国各地で桜の名所に大勢の人が繰り出した結果、‘密集’と‘密接’の“2密環境”ができて再び感染者が増えました。さらに、首相の「緊急事態宣言」にもかかわらず、「暇だから」と言ってパチンコ屋に並ぶ客の姿を見ると、いくらマスコミ報道による誇張があるとは言え、‘呆れ’を乗り越えて‘憤り’すら感じる国民は多かったのではないのでしょうか。

ここで、医療従事者としての懸念は、向けられたマイクに「自分は感染しても良いから」とまで言って憚らないパチンコ好きこそ、いったん発熱が続くと真っ先に発熱外来に来そうなことです。そして、酸素飽和度が下がったりすると、大騒ぎをして医療従事者を困らせそうなことです。そんな身勝手な患者も、医師や看護師は身を危険に晒しながらも分け隔てなく治療しなくてはならないのですから、言い表しようのない‘不条理’を感じざるを得ません。さらに、そんな過酷な現場で働く医療従事者の家族が周囲からの差別を受けているという事実を聞かされると、病院長として申し訳ない気持ちになります。医療従事者に立ち上がって拍手を送る国がある一方で、家族にまで誹謗や中傷を浴びせる日本人を見ると、謙虚さを尊ぶはずの我が国民の二面性に失望させられます。

さて、当院には5月初旬までに最大3人のPCR陽性者が入院されました。それぞれが様々な生活の中で感染してしまった被害者ですが、抗ウィルス薬（アビガン）の効果もあってか、幸い重症化せずに経過しています。ちなみに、当院の陰圧個室は新病院に改築したときに作った4床ですが、今まで結核の患者さんが1人程度入院されたぐらいだったものが、今回のCOVID-19騒ぎで有効に活用できました。



一方、改築当時では最善を尽くしたはずが、外来にも発熱者用の陰圧診察室を整備しなくてはならないこともわかり、あわてて‘簡易陰圧テント’を救急外来診察室に張りました。また、無症状者のスクリーニングには、‘ドライブ・スルー’を真似て、待機した被検者の検体を車の中で採取することも日常になりました。あるいは、ガウンが足りないのを見るや、インターネットから学んだやり方でゴミ用のポリ袋を加工して作ってくれるクラークもいます。玄関に立って来院者の検温を担当する事務職もいます。「考えが行動を変える、行動が習慣を変える、習慣が性格を変える、性格が運命を変える」と語って、一流の野球人になるために‘考えること’の大切さを選手に

説いたのは野村監督（故人）ですが、COVID-19 と戦うなかで当院の職員の‘考え方’が変わりつつあり、「ピンチを乗り越える」という‘習慣’が身に付き始めているようにも思います。その‘習慣’が、内科医不足という‘負の性格’の解決に繋がり、病院の‘運命’まで好転させてくれれば、このウィルス禍も当院にとっては‘苦しいチャンス’なのかもしれません。とは言っても、本号が発刊される頃には、来院者の検温が要らないような状況になっていることを祈って止みません。

■脳卒中ホットライン開設のご案内

脳神経外科 笹岡 昇・小川 智也

この度、2020年4月より、当院において脳卒中ホットラインを開設いたしました。

脳卒中ホットライン開設の経緯としましては、2018年12月に脳卒中・循環器病対策基本法が成立し、脳卒中や心筋梗塞など循環器病の予防推進と迅速かつ適切な治療体制の整備を進めることが全国的に求められており、当院も環境を整備し、脳卒中学会より一次脳卒中センターに認定されました。

一次脳卒中センターの認定要件としては、24時間rt-PA静注療法を施行可能であることや機械的血栓回収療法が施行できることなどが挙げられております。近年、急性期脳梗塞に対する血管内治療の進歩は目まぐるしいものがあり、当院でも香川大学脳神経外科の血管内治療グループの川西正彦先生を始めとする先生方の協力もあり、機械的血栓回収療法が可能な環境を整備し、2019年より運用を開始し、既に適応症例に関しては血管内治療を施行し、劇的な改善を認めた症例もございます。

脳梗塞については、1分1秒でも早い治療介入が患者様の神経機能を回復する可能性があり、当院でも脳卒中ホットラインを開設させていただきました。脳出血症例に関しましても、内視鏡を用いてより創部や開頭範囲が小さくて済む、低侵襲な治療を取り入れております。近隣の診療所の先生方や消防局救急隊の隊員の方々に脳卒中ホットラインをご利用いただき、患者様の早期の治療介入につながれば幸いです。

脳卒中には、明らかな麻痺や言語障害を呈さない症例もあり、脳卒中を疑うのは判断に苦慮する症例にしばしば遭遇することがあります。

そういった症例に関しましても、脳卒中を少しでも疑えば、お気軽にご連絡いただければ幸いです。今後も地域の病院、診療所の先生方や消防局救急隊の隊員の方々との連携を深めて、スピーディかつ良質な医療をご提供できればと思っております。

さぬき市民病院

脳神経外科・脳卒中

ホットライン開設



■第25回日本災害医学総会・学会集会に参加して [2月20日] 4階東・HCU 多田 陽

私は災害医療に興味があった事と、一つの目標に向かってチームで協力して取り組むDMAT隊員の活動に惹かれ、2019年に日本DMAT研修に参加しDMAT隊員となりました。看護師になる前に記憶している災害は東日本大震災で入職前でした。その前は、阪神淡路大震災で当時5歳、私には殆ど記憶にありません。

今回の学会参加では、阪神淡路大震災から25年が経過していますが、当時の現場状況や活動状況、街の被害状況などシンポジウムを通して知ることができました。また、想像もできない壮絶な現場状況を映像でみた衝撃は大きく、災害医療が十分に確立されていない現場での活動、神戸から大阪への医療搬送に相当な時間を要した事など、今では確立され研修で学んだ事も、当時は手探り状態だったという事実も改めて学びました。

昨今、医療依存度の高い患者さんが在宅療養をされるケースが増加しています。在宅酸素療法をされている患者さんと関わらせていただく機会が多く、実際に「停電時」「災害時」にどのような対応をすれば良いのかという質問をいただきます。勿論、機器メーカーの対応方法もありますが、当院が災害拠点病院であることを考えると、退院支援に「災害時の対応方法について」といった内容を加味する事も大切であると考えます。

災害時の病院内での対応とともに、医療依存度の高い方が安心して住みなれた場所で生活が続けられるように、災害時対応や指導をどのように行っていくかという課題に向き合い、日々の業務に努めたいと思います。

認定看護師の紹介

認定看護師とは、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有する者として、日本看護協会の認定を受けた看護師のことをいいます。認定看護師の資格には種類があります。

緩和ケア認定看護師

内科外来 主任看護師 山本 亜佐美

命に関わる病気に罹った患者さんご家族の身体と心、仕事や療養場所、魂の苦痛を和らげるために日々奮闘しています。患者さんの笑顔や、「楽になった」の一言が私たちの活力です。

当院には、医師、薬剤師、緩和ケア認定看護師、臨床心理士、作業療法士から成る、緩和ケアチームがあります。痛み、息苦しさ、身体のだるさ、吐き気、不安、夜寝られないなどの症状に、各職種の得意分野を活かして、チームで緩和ケアを提供しています。

現在は、入院している患者さんご家族を対象を限定していますが、コンサルトしていただいています。主治医や、病棟の担当看護師からコンサルトされた、患者さんご家族のもとを週に1回訪れ、カンファレンスを行って、継続的に専門的な緩和ケアを提供しています。



©医師、緩和ケア認定看護師、薬剤師、作業療法士

感染管理認定看護師

看護部副部長 兼 看護部3階東病棟看護師長 中西 由美

看護部外来主任看護師 兼 医療安全管理センター主任看護師 井原 由弘

感染管理認定看護師の役割は、専門的な知識と技術を用いて、患者さん、来訪者、医療従事者、施設、環境を対象に、感染に対するリスクを最小限に抑えるために、正しくかつ効率的な感染管理を計画、実践、評価し提供するサービスの質の向上を図る事です。

このような活動は、医療従事スタッフの協力によって確実に効果が現れます。

これからも院内はもとよりさらに地域の感染予防対策が推進できるよう取り組んでいきたいと思ひます。

流行している感染症や、何か気になることがございましたら、お気軽に声をおかけ下さい。



皮膚・排泄ケア認定看護師

4階西病棟 副看護師長 坂本 芙美子

私はこれまで周術期の患者さんに関わるなかで、ストーマを保有する患者さんへのセルフケア指導に対して苦手意識がありました。ストーマリハビリテーション講習会等で知識や技術を学ぶことで、患者さんへのストーマセルフケアや日常生活指導を行う機会が増えました。時には病棟看護師とともにより良いケア方法を考え、ストーマケアの大切さを日々感じていました。その中で、その人らしく生きることを考えられるストーマケアを行っていきたくと思ひ、自分の看護師としての役割を考え皮膚・排泄ケア認定看護師を目指しました。そして、2019年に皮膚・排泄ケア認定看護師の資格を習得しました。現在は、外科病棟勤務をしながらストーマ外来や褥瘡回診、排尿自立支援チームラウンドを実施し、組織横断的に活動しています。



褥瘡対策委員会や排尿自立支援プロジェクトでは、医師や看護師だけでなくコメディカルを含めたチーム医療を行っています。

また、ストーマ造設後の患者さんの退院後訪問や、地域の施設へ訪問し褥瘡ケアのアドバイスをしています。患者さんが、安心して住み慣れた地域で日常生活が送れるように、活動をしていきたいと思ひています。

これまで病棟勤務を経験する中で、認知症看護に関わることが多くあり、「認知症＝わからない人」という認識がありました。当院は高齢の患者さんや認知症の患者さんが多いため、治療を優先させるためやむを得ず抑制をすることになって『仕方がない』と思ってしまうことにジレンマを感じていました。認知症患者さんが、少しでも安心して療養できる環境が提供できるよう、昨年、認知症看護認定看護師になりました。



認知症看護認定看護師は、認知症者の意思を尊重し、権利を擁護することや、認知症者に徒って安全かつ安心な生活・療養環境を調整する、認知症の行動心理症状を悪化させる要因・誘因に働きかけ、予防・緩和に働きかけるなどの役割があります。現在は、認知症患者さんが安心して療養できるよう認知症ケアの向上を目的に、院内ラウンドを行い、病棟看護師とともに認知症ケアの見直しを行っています。

新任医師及び職員 紹介

令和2年4月1日付け採用者を、皆さまにご紹介します。
 <医師6名, 研修医7名, 放射線技師1人, 臨床検査技師1名, 管理栄養士1名, 看護師11名, 介護福祉士1名, 情報管理員1名>

<p>藤原 龍史 [整形外科医] よろしくお願ひします。</p>	<p>山鳥 佑輔 [麻酔科医] よろしくお願ひ致します。</p>	<p>末光 源児 [整形外科医] 精一杯頑張りますので、よろしくお願ひ致します。</p>	<p>竹内 満理 [小児科医] 早く役に立てるよう頑張ります。宜しくお願いします。</p>	<p>小森 くるみ [総合診療科医] 精一杯頑張りますので、よろしくお願ひします。</p>	<p>高場 啓太 [総合診療科医] 内科で勤務します。よろしくお願ひします。</p>
<p>伊藤 太一 [内科専攻医] 4月から着任致しました。よろしくお願ひ致します。</p>	<p>篠原 圭治 [内科研修医] 3ヶ月間研修させて頂きます。一生懸命頑張ります。</p>	<p>露口 悠太 [脳神経外科研修医] ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。</p>	<p>朴 哲男 [内科研修医] 内科で約半年間、ご指導の程よろしくお願ひします。</p>	<p>細川 敦司 [内科研修医] 内科研修でお世話になります。宜しくお願いします。</p>	<p>芳田 峻典 [内科研修医] 半年間、ご指導の程よろしくお願ひ致します。</p>
<p>岡本 将太 [小児科研修医] 毎日進歩出来るよう頑張ります。宜しくお願いします。</p>	<p>黒田 かれん [放射線技師] 明るく笑顔で頑張ります。よろしくお願ひ致します。</p>	<p>新井 絢浩 [臨床検査技師] 精一杯頑張りますので宜しくお願い致します。</p>	<p>松村 美里 [管理栄養士] 1日でも早く現場で活躍できるように日々努力します。</p>	<p>高木 絢子 [看護師] 気持ちも新たに、病院のスタッフとして頑張ります。</p>	<p>山本 庸平 [看護師] 寄り添う看護を心がけます。宜しくお願いします。</p>
<p>圖師 絢子 [看護師] 地域の皆さんに信頼される看護師になれるように頑張ります！</p>	<p>まつもと じゅり [看護師] 初めての外科病棟で、分からない事ばかりですが、一生懸命頑張ります。</p>	<p>こたま だい [看護師] 責任ある立場を自覚して日々努力していきます。</p>	<p>みよし かな [看護師] まだまだ未熟で、至らぬ所も多いですが自分らしく頑張ります。</p>	<p>たにぐち れいや [看護師] 優しい先輩看護師に支えていただきながら、毎日頑張っています！！</p>	<p>ひらしま りの [看護師] 先輩方にアドバイスをいただきながら、一生懸命がんばります。</p>
<p>あべ みさき [看護師] 不慣れなため、先輩方にご指導していただき少しずつ成長していきます。</p>	<p>あんざい ゆい [看護師] 新しい環境の中、たくさんのお事を学び、一員として頑張りたいです。</p>	<p>にしお さとみ [看護師] 先輩たちのように患者さんに寄り添える看護師を目指して頑張ります。</p>	<p>まつむら ゆうや [介護福祉士] 優しく仕事を教えてくれる先輩に恵まれ、日々楽しく働いています。</p>	<p>ささき たかひ [情報管理員] 情報管理員として医療の質の向上のために貢献したいと思ひます。</p>	



❀❀❀リハビリ庭園にお花を植えていただきました❀❀❀

4月16日、植栽ボランティアとして石川茂男さんが来院され、写真のとおり連翹（れんぎょう）を植えてくださいました。「花が咲けば黄色と白色のコントラストがきれいなので楽しみにしてください。」とのことでした。心温まる植栽をありがとうございました。職員の皆さんもリハビリテーション室や会議室に立ち寄った際には、ご鑑賞ください。

